

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 5 年度病害虫防除情報第 2 号

茶のチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生状況についてお知らせします。

各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

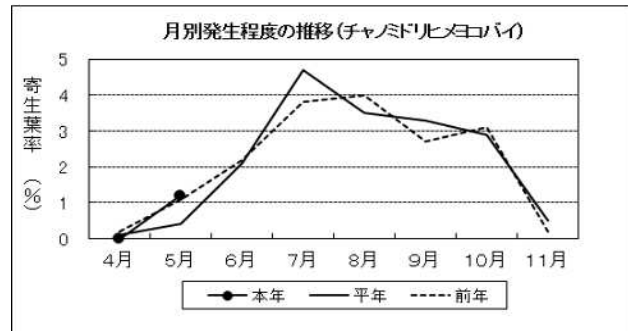
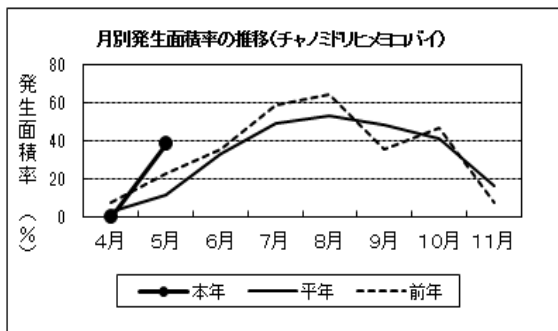
県内各地で茶のチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマが多くなっています。適期防除に努めてください。

1 作物名 茶

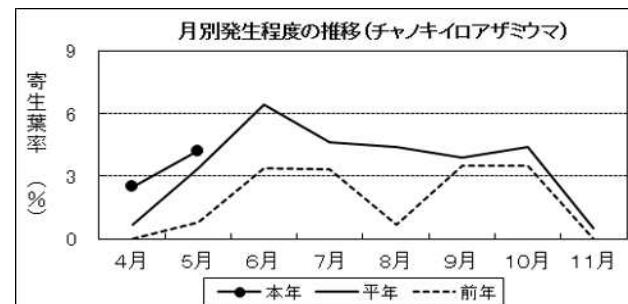
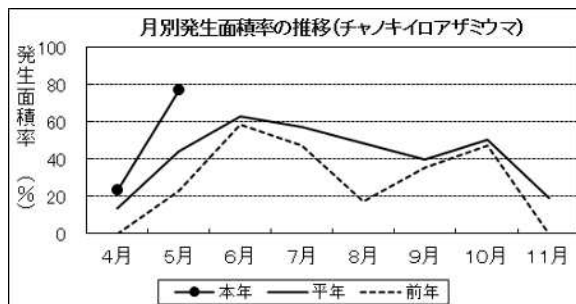
2 病害虫名 チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ

3 発生状況（経過）

1) 5月中旬の巡回調査の結果、チャノミドリヒメヨコバイの発生面積率は38.5%（平年12.0%）、寄生葉率は1.2%（平年0.4%）でいずれも平年に比べて多である。



2) 5月中旬の巡回調査の結果、チャノキイロアザミウマの発生面積率は76.9%（平年44.3%）、寄生葉率は4.2%（平年3.4%）でいずれも平年に比べてやや多である。



4 防除上の注意

1) チャノミドリヒメヨコバイ

・一番茶摘採後から10月中旬頃まで発生がみられるが、特に二、三番茶の開葉期と秋芽に発生が多く、加害されると減収、品質低下が著しいため、萌芽期から開葉初期に薬剤散布を行う。

- ・同時期にチャノキイロアザミウマが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。
- 2) チャノキイロアザミウマ
 - ・二、三番茶及び秋芽の1～2葉期の被害防止に重点を置き、多発時には5～7日間隔で2回の薬剤散布を行う。
 - ・主に葉裏に生息しているため、萌芽期から開葉初期に、若葉の裏によくかかるように薬剤散布を行う。
 - ・同時期にチャノミドリヒメヨコバイが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。
- 3) 幼木園や中切り更新を行った園では常時新芽が存在し、長期にわたり被害を受けやすいので注意する。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 若杉
TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-2127
ホームページ : <http://www.jpjn.ne.jp/miyazaki>
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp